

同社独自の生産方式、IoTの活用で 高品質・短納期・低コストを実現

同社は、試作開発から量産までを自社内で行う一貫生産体制で、自動車の足回り部品等、高い安全性が求められる製品を製造している。「狭い分野でも世界一」をめざし、究極の1個流しラインの推進、また、自前設備の組合せによる高難度加工に取組み、高品質・短納期・低コストを実現している。IoTを活用した生産状況の「見える化」、働き方改革にも着手し、2017年経済産業省より「地域未来牽引企業」に認定されている。

●所在地	群馬県桐生市新里町板橋320-1
●電話/FAX	0277-74-2421/0277-74-5136
●URL	http://www.shodass.com/
●代表者	代表取締役会長 正田 勝啓

●設立	1952年
●資本金	9,900万円
●従業員数	187人



自前設備を最大限活用した高難度加工や軽量化ニーズへの対応

同社は、90%の稼働率、60%のファンクションタイム、手扱い1工程4秒、1個流しという基本姿勢を貫く、SPS(SHODA Production System)を確立し、自前設備で高難度の加工にも対応可能な生産体制を構築している。その結果、顧客の依頼に迅速に対応でき、量産化までのリードタイムや設備投資を圧縮し、短納期と低コストを両立させている。また、自動車部品において注目を集める軽量化技術においても、薄肉化、一体化、材料置換え等の幅広いアプローチによって、軽量化と機能性の両立を図っており、高付加価値化への取組を促進している。



軽量化と機能性を両立した自動車部品

IoTを活用した生産状況の「見える化」

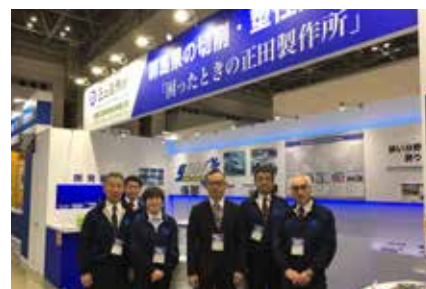
2016年に「IoTによる中堅・中小企業の競争力強化に関する研究会」(経済産業研究所)への参加をきっかけにIoT化を促進。2018年には製造ライン遠隔モニタリングシステムを設置し、稼働状況、生産実績、時間あたり生産数、稼働時間等をリアルタイム、かつラインごとに確認できるように「見える化」をした。また、クラウド上に保管・集約された生産実績のデータにより、担当者は随時生産状況を把握することができる。



IoTを活用した製造現場

女性や高齢者が柔軟に働ける生産システム構築への挑戦

IoTを活用した生産状況の「見える化」を発展させ、女性や高齢者が空き時間や自分の好きな時間に働ける出退勤システムの構築に挑戦している。ラインごとの生産状況に応じて作業者募集の情報をスマートフォンに流し、それを見て登録者が出勤予約をするという「自律的出勤型」の仕組みである。女性や高齢者でも対応可能な生産工程構築とIoTの活用により、生産効率の向上と柔軟な働き方の両立をめざしている。



狭い分野でも世界一をめざす技術屋集団